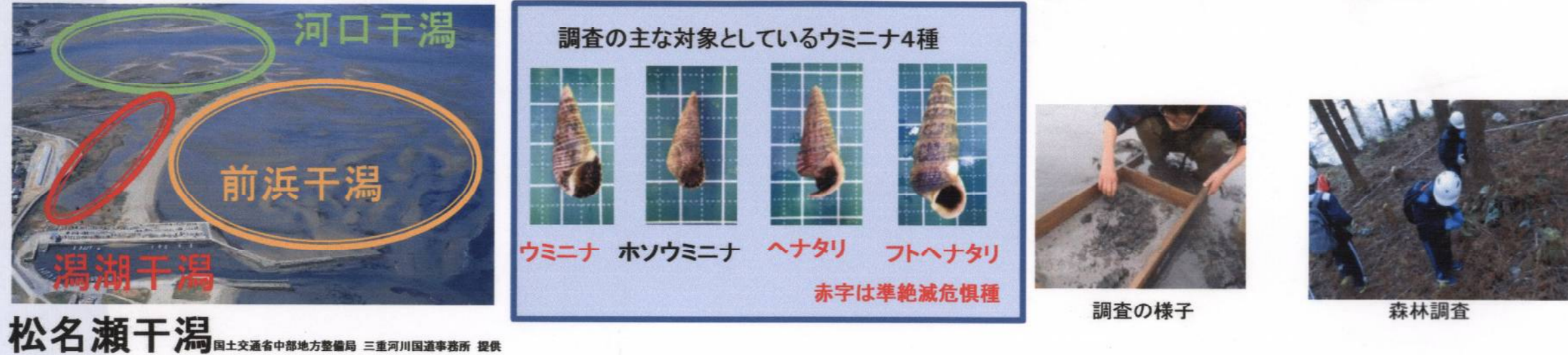


科学技術部のこれまでの活動

三重中学校・高等学校の科学技術部では、以下のような活動をしています。
松名瀬干潟で月一回の生物相調査(今年で10年目)・森での活動



自分たちで企画運営を行っている環境教育



調査や環境教育を生かした発表



海と森のつなげる
ことによって様々な
ことが見えてくる!



科学技術部の新しい活動

- 1、松阪木綿と海とのつながりを知り、海に興味を持ってもらう
- 2、部員の意識を高める

1、松阪木綿と海とのつながりを知り、海に興味を持ってもらう

これまで環境教育で松名瀬干潟のついて紹介してきたが、ほとんどが海に興味がある人に対してだった。

海に興味のない人にも海について興味を持ってもらうために、地元の祭りに参加。そこで、「松阪木綿と海とのつながり」について紹介。



海に興味のない人にも、地元の伝統工芸品、松阪もめんを海に興味を持ってほしい

松阪もめんと海とのつながりとは?

江戸時代、松阪の海は豊かで小魚が豊富だった。その小魚を干して作った肥料干鰯を使って松阪もめんに使われる綿の栽培が行われたため、江戸で大流行。



もっと多くの人に松名瀬干潟を知ってもらいたい。松名瀬海岸の小魚を使って干鰯を作り、その干鰯で綿栽培をすればもっと多くの人に松阪もめんと海とのつながりを知ってもらえるのではないかと考えた。

綿栽培に干鰯は適しているのか
「綿栽培に干鰯は本当に適しているのか?」と思い、綿の栽培実験を行った。
文献から「干鰯を使った江戸時代の育て方」を再現、「現代の綿栽培で一般的な化成肥料の育て方」、「何も与えない」場合を比較

綿の栽培実験結果

7月3日~12月15日に回収	干鰯	化成肥料	何も入っていない
綿の重さ	12.71g	15.96g	2.02g

綿の葉の様子 (干鰯・化成肥料)
干鰯の葉 → 緑
化成肥料の葉 → 黄色

6.3倍 (干鰯 vs 何も入っていない)
7.9倍 (化成肥料 vs 何も入っていない)
1.3倍 (化成肥料 vs 干鰯)

・化成肥料と干鰯では綿の重さにあまり差がなかった
・化成肥料よりも干鰯のほうが葉が健康に育った
このことから干鰯は綿栽培に適した肥料だと分かった。

2、部員の意識を高める

入部当初の自分たちの意識

例: 何のために活動しているのか理解していないため指示されたことだけをする。さらに、指示されたことだけをしていればよいと思っている。つまり、意識が低い

意識が低いと、新しい活動をする事ができない

自分の意見が言えるということは、活動の意味を理解しているということだと考えた。

自分で意見が言えるようになれば、自ら行動できるようになり、活動が継続し、深めることができる。

自分で意見が言えるようになるために、部員同士で意見を言い合い、考えを共有する機会を作った。

一部の人は、自分の意見を言えるようになった。さらに、相手の考えに意見を言えるようになった。

ほとんどの人は、周りの人の意見を真似するだけで、自分の意見を考えて言えなかった。

考えを共有する機会を作ったことで、自分の意見を言えるようになったよ!

周りの意見のまねではなく、自分の意見を自分で言えるようになるために、1人1人個別に意見を聞く機会をつくる。

これから自分の意見を言えるようになり、自分たちで活動を継続し、深めることができるようになりたい。

部員の声

・自分で考えて行動するということが苦手だったが、今はやるべきことを自分で考えられるようになった。 2年 齋藤 空

・自分たちがやっていることの重要性がわかっていなかったが、今はやっていることの重要性がわかった。 3年 高橋 稜

・一部の人は自分から行動できるようになったが、まだほとんどの人が周りの人に頼っている状況なので、部員全員が自分から行動する意識を持ってほしい。 2年 石川 恵雅

これからもっと多くの人に松阪もめんと海とのつながりを知って海に興味を持ってもらうために、綿の栽培実験を発展させていく。部員一人ひとりが意識を高く持って活動し、これからも新しい活動にチャレンジしていきたい。

こどもエコクラブ発足新聞 (2020年度)
(横書きサイズ用)

クラブ(団体・グループ)所在地
都 道 松阪 市 区 町 村

クラブ(団体・グループ)名
三重中学校・高等学校
科学技術部

(2020年度 応募作品) □幼児クラブの審査を希望